

臨床研究に関する情報公開

「限局性膵萎縮の臨床的特徴と画像診断：切除例 5 例の検討および膵癌症例の後方視的検討」へのご協力をお願い

当院の研究責任者

外科 加藤憲治

他の研究機関および各施設の研究責任者

なし

研究の対象

当院で膵手術を施行した患者さんが対象です。

研究目的・方法

膵癌は予後不良であり、早期診断が予後改善の鍵を握ります。特に膵管上皮内癌（HG-PanIN/CIS, Stage 0）の段階で治療が可能であれば、患者さんにとって大きな恩恵が期待されます。近年、限局性膵萎縮（focal pancreatic parenchymal atrophy, FPPA）が HG-PanIN/CIS と関連する可能性が報告されており、画像上の新たな指標として注目されつつあります。当院でも FPPA を契機に外科的切除を行った症例を経験しており、その臨床的意義を検討し、今後の診療に利用することを目的としました。

研究に用いる試料・情報の種類

検査所見やカルテ記載、病理組織所見等の診療情報

外部への試料・情報の提供

ありません

個人情報の取扱い

研究に使用する情報から個人を特定できるものは削除します。学会および論文発表において対象者を特定できる個人情報は一切使用しません。

研究資金源・利益相反

ありません

お問い合わせ先

0598-21-5252 加藤憲治